ユニバーサルデザインを生かした情報の取り組み

富山県立新川みどり野高等学校　徳道 隆仁

本校におけるユニバーサルデザインとは「学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、全員の生徒が、楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された通常教室における授業のデザイン」のことである。

本校は定時制単位制高校であり、生涯学習カレッジ新川地区センターが併設されている生涯学習校である。不登校経験者や特別支援学級に所属していた生徒、他の高校から転入してきた生徒、社会人経験のある生徒、20 歳を超えた生徒など様々な生徒が在籍している。このような高校生と社会人受講生が共に授業を受けており、学習経験や学力の幅が大きく異なる多様な受講者に対して、本校の授業ではユニバーサルデザインが求められている。

本校で開講している「社会と情報」では、情報モラルについての学習に特に力をいれており、情報社会に積極的に参加するために必要な態度を身につけることや、情報の特徴や社会に及ぼす影響についての理解を促している。

情報モラルを指導する際には、座学による知識の習得と、実感を伴う学習活動をバランスよく取り入れることで、効果的に学習できると考えているが、PC 教室のみで授業をしていると座学の内容に集中できないことがよくあった。そこで、45 分授業を 2 時限続きで実施している本校は、H27 年度から 1 限目を普通教室で行い、2 限目を PC 教室での実習に充て、授業にメリハリができるよう試みている。

普通教室での座学では言語活動の充実を目指し、会話や発問によって生徒の意見を聞き出し、生徒の意見に基づいた板書により、生徒にとって親近感のある学習内容、進行を図っている。発問の際には間違って当たり前のスタンスでクイズや、感想・予想を求める形式で行っている。大幅にずれた回答を避けるため、発問の工夫や、回答をリフレーミングすることで学習内容に関連づけている。45 分間の授業で全員が複数回発言する機会を設けている。

PC 教室では実感を伴える学習活動を 1 人 1 台の画面に教材を呈示することで、集中力が維持できるよう実施している。

「ＳＮＳ等のやりとりによる、人間関係のトラブルを防止する」取り組み。

いじめに繋がるメッセージのやりとり（台本を用意）を生徒と教員間で実際に行い、リアルタイムで SNS のメッセージ画面を見せると、生徒は真剣に被害者の立場で「不快」とは具体的にどのようなものかを考えることができた。

※事前に厳かな雰囲気を作って授業を始める必要がある。

「軽率なネットへの書き込み・投稿に注意する」取り組み。

SNS への投稿から掲示板の炎上および個人の特定・情報流出に繋がったニュース記事をネット検索により紹介し、不適切な投稿に対する問題だけでなく、数年経過した現在でも、流出した個人情報が検索できることを示した。情報の残存性の恐ろしさの観点から問題意識を学習することができた。

※実際の個人情報流出のため、プライバシーに注意する必要がある。

情報モラルは情報社会にどのような態度で臨むかが問われる内容であり、考査のための暗記であってはならない。

そのため、「覚えること」ではなく「身につけること」が必要である。

生徒には情報社会における行動から、起こりうる結果を知り、「自分だけは大丈夫」という他人事にするのではなく、当事者の立場になって真剣に考える授業になるよう実践してきた。

全ての生徒にとって「分かる・できる」授業は「身につける」授業であると考え、生徒の言葉に基づいて授業を進め、座学から実感、実感から座学の組み合わせのバランスを効果的に行うことが本校の情報におけるユニバーサルデザインであると考えている。